われわれの任務

ロシアに**真に**自由な農業企業家的経営をうちたてるためには、**すべての**土地――地主の土地も分与地も――の「仕切りを撤去し」なければならない。**すべての**中世的土地所有をうちこわし、ありとあらゆる土地を自由な土地のうえの自由な経営主のまえに平等にしなければならない。土地の交換、移住、地所の分合、さびついたチャグロ的共同体にかわる自由な新しい協同組合の創設などを、できるかぎり最大限に容易にしなければならない。すべての土地からあらゆる中世的がらくたを「一掃」しなければならない。

この経済的必要を表現しているのが、農村における農奴制的秩序との完全な決裂としての、土地の国有、土地私有の廃止、**あらゆる**土地の国家の所有への移転である。この経済的必要こそが、ロシアの農民**大衆**を土地国有の支持者としたのである。小さな自作農耕者はこぞって、1905 年の農民同盟の大会でも、1906 年の第一国会でも、1907 年の第二国会でも、すなわち、革命の第一期全体を通じて、国有に賛成した。彼らが賛成したのは、「共同体」が彼らのうちに特殊な「萌芽」、特殊な、ブルジョア的でない「勤労原理」を植えつけたからではない。彼らが賛成したのは、反対に、生活が彼らに、中世的共同体と中世的分与地所有からの**解放**を要求していたからである。彼らが賛成したのは、彼らが社会主義農業をうちたてることをのぞんだから、あるいはうちたてることができたからではなく、彼らが真にブルジョア的な、すなわち、**あらゆる**農奴制的伝統から最大限に解放された小農業をうちたてることをのぞんでいたし、また現にのぞんでいるからであり、うちたてることができたし、また現にそうすることができるからである。

このように、ロシア革命のなかでたたかっている諸階級の、土地私有の問題にたいする独特の態度をよびおこしたものは、偶然やあれこれの教義の影響（近視眼的な人はこう考えるけれども）ではない。この独特さは、ロシアにおける資本主義発展の諸条件と、この発展の現時期における資本主義の要求とによって、完全に説明される。すべての黒百人組的地主、反革命的ブルジョアジー全体（オクチャブリストも**カデット**もこのなかにはいる）が、土地の私有に賛成した。全農民と全プロレタリアートは、土地の私有に反対した。ユンカー的＝ブルジョア的ロシアをつくり出すという改良的な道は、必然的に、古い土地所有の基礎を維持すること、それが、住民大衆をくるしめながら、ゆっくりと資本主義に適応していくことを、予定している。古い秩序を実際に打倒する革命的な道は、その経済的基礎として、ロシアのすべての古い土地所有形態をすべての古い政治制度もろとも廃止することを、不可避的に要求する。ロシア革命の第一期の経験は、革命は農民的土地革命としてはじめて勝利しうること、農民的土地革命は土地国有化なしにはその歴史的使命を完全にははたしえないことを、最後的に証明した。

もちろん、国際的プロレタリアートの党である社会民主党、全世界的社会主義の目標をみずからに課しているこの党は、どのようなブルジョア革命のどのような時代ともとけこむことはできず、その運命をあれこれのブルジョア革命のあれこれの結末と結びつけることもできない。どのような結末になろうとも、われわれは、勤労大衆をその偉大な社会主義的目標にむかって確固として導いていく自立的な、純粋にプロレタリア的な党としてとどまらなければならない。だから、われわれは、ブルジョア革命のどのような成果であっ

ても、それを恒久的なものにするどんな保障もひきうけることはできない。なぜなら、ブルジョア革命であるかぎり、その**あらゆる**成果の非恒久性と内的矛盾性は、この革命に内在的に固有であるからである。「復古をふせぐ保障」の「案出」ということは、無思慮の産物としてだけ現れうる。われわれの任務はただ一つ――社会主義革命のためにプロレタリアートを結束させ、旧制度とのあらゆる闘争をできるかぎり断固とした形態で支持し、発展しつつあるブルジョア社会でプロレタリアートにとって最上のありうる条件を擁護することである。だが、この点から不可避的に出てくることは、ロシアのブルジョア革命でわが社会民主党の綱領たりうるものは、土地の国有だけだということである。われわれの綱領の他のすべての**部分**と同様に、われわれは土地国有を、政治的改造の一定の形態および一定の段階と結びつけて提起しなければならない。なぜなら、政治的変革の規模と土地変革の規模とは一様でないわけにはいかないからである。われわれの綱領の他のすべての部分と同様に、われわれは土地国有を、小ブルジョア的幻想から、「基準」についてのインテリゲンツィア的官僚的おしゃべりから、また共同体の強化あるいは均等な土地用益についての反動的空語から、厳密に区別しなければならない。プロレタリアートの利益が要求するのは、あれこれのブルジョア的変革のための特別のスローガン、特別の「計画」あるいは「体系」を考え出すことではなくて、ただ変革の客観的条件を**首尾一貫**して表現すること、この客観的な、経済的に克服しえない諸条件を幻想と空想から清めることだけである。土地国有は、農業における中世的なものを完全に精算する唯一の方法であるばかりでなく、資本主義のもとで考えられる最良の土地整理方法である。

第 13 巻 P436~438『1905～1907年のロシア革命における社会民主党の農業綱領』

1907 年 11 月～ 12 月に執筆

ポイント

国際的プロレタリアートの党である社会民主党、全世界的社会主義の目標をみずからに課しているこの党は、どのようなブルジョア革命のどのような時代にも埋没せず、その運命をあれこれのブルジョア革命のあれこれの結末に任せることもしない。どのような結末になろうとも、勤労大衆をその偉大な社会主義的目標にむかって確固として導いていく自立的な、純粋にプロレタリア的な党でなければならない。

われわれの任務はただ一つ、社会主義革命のためにプロレタリアートを結束させ、旧制度とのあらゆる闘争をできるかぎり断固とした形態で支持し、発展しつつあるブルジョア社会でプロレタリアートにとって最上のありうる条件を擁護することである。だから、われわれは、ブルジョア革命のどのような成果であっても、それを恒久的なものにするどんな保障もひきうけることはしない。

われわれは土地問題を、われわれの綱領の他のすべての部分と同様に、政治的改造の一定の形態および一定の段階と結びつけて提起する。この点から不可避的に出てくることは、ロシアのブルジョア革命でわが社会民主党の綱領たりうるものは、土地の国有だけである。

なぜなら、土地国有は、農業における中世的なものを完全に精算する唯一の方法であるばかりでなく、資本主義のもとで考えられる最良の土地整理方法である。